



作家
きょう 姜 信子 さん

■プロフィール
 1961年 在日韓国人3世として横浜市に生まれる
 1985年 東京大学法学部卒業後、広告代理店に勤務
 1986年 夫の出身地である熊本へ「ごく普通の在日韓国人」で朝日ジャーナル賞受賞
 1989年 転勤に伴い91年3月まで韓国大田市に在住
 1991年 帰国、熊本市内在住
 * 著書に「かたつむりの歩き方」(朝日新聞社)、「キョウノブコとカンジジャーニツの名前一」(韓国・啓洋出版社)。現在、熊本日日新聞に「姜信子のふつうの眼鏡」、韓国の女性誌「ラベル」にエッセイを執筆中。
 また、エフエム中九州「ラジオD.O./」パーソナリティとしても活躍中。

国際化という言葉はおなじみになっても、語学をはじめ、わたしたちは、どつしても難しく考えがち。それを、「もっとミスターになつて、若者に共通の音楽や映画で国境を飛び越えてみたら……」と考えたのが、姜信子さんと仲間たち。熊本にいながらにしてアジアの最新情報を取り入れ、かつ発信もするというユニークな活動が、注目を集めています。



エフエム中九州のスタジオで「ラジオD.O./」収録中の姜さん

「何かをしたい」人たちが集まった

わたしの家には以前から、異業種交流みたいな形で、サラリーマンや主婦、自由業、フリーアルバイターなど、いろんな人たちが集まっています。その中で、アジアの「いま」に関心があるという共通点から発展して、昨年七月に台湾映画の自主上映会を開いたんです。きっかけは、「見たいけれど、熊本では上映されない映画」というシンプルな動機。



上映会がきっかけで作られるようになった情報紙

従来だったら、「熊本にないなら福岡に行こう」となるんでしょうが、熊本でやろう、と。その結果、「映画以外にもいろんなことができるんじゃないかな」って、気がついたんですね。も

アジアのいまは、教科書ではわからない。
エンターテインメントを通して
最新情報を取り入れたいと思うんです。

とも「何かをしたい」と思っている人たちの集まりだったんです。
エンターテインメントなり
国境を超える

たとえば、韓国人、中国人、台湾人、日本人と集まりますよね。その際、日本人は言葉が通じたとしても、共通の話題がないんです。だって、いきなり政治経済の話でもないです。ところが、彼らは香港映画やその人気スターの話で、すぐに盛り上げられる。

教科書だけでは、アジアの今はわかりません。各国に日本と同じような若者文化、娯楽文化があるということを知らないんですね。だから熊本に帰って来てからも、映画や音楽などのエンターテインメントの部分で、アジアの最新情報を取り入れ、こちらからも発信していきたいな、と思ったんです。最近では、「アジアおたく」なんて言われたりしますが(笑)。歴史的に見ても九州に活気があったのは、中央への一極志向がなかった江戸時代以前の時期。いま再び、熊本からソウル、香港、東京へと発信し続けていきたいと思っています。



韓国の若手実力歌手イ・サンウンのライブを企画し、話題に。8月にはマルセ太郎の「スクリーンのない映画館」を予定